

SWEENEY TODD



スウィーニー・トッド

「真夜中のカーボーイ」巨匠ジョン・シュレシンジャー監督作品 / ベン・キングスレー / ジョアンナ・ラムリー / キャンベル・スコット / セレネ・ホキックス / デイヴィッド・ワイルモット
製作: チップ・スワンソン / 製作総指揮: ロバート・ハルミ / ジュニア & ピーター・ショウ & ゲイリー・ダートナル / 音楽: リチャード・ロドニー・ベネット / 編集: マーク・デイ / 美術: スティーヴン・シモンズ / 撮影: マチン・ファラー / 衣裳デザイン: ジョアン・バーズ
配給: アリスター・ロスマン ★ / 提供: アート・キャップ 関

18世紀末、ロンドン・フリート街を恐怖に陥れた伝説の猟奇殺人鬼スウィーニー・トッド、完全映画化!

封印された床屋伝説

スウィーニー・トッド

あの異常殺人者エド・ゲイン、切り裂きジャックよりも残忍で人類の犯罪史上、最も残酷な殺人鬼が存在していた!

スウィーニー・トッド事件。18世紀末のロンドンを恐怖に陥れた猟奇人肉嗜食事件である。歴史上から完全に封印されたものの、様々な噂が飛び交い「恐怖の伝説」として20世紀の今に至るまで語り継がれている。最も信憑性が高い説としては、ロンドン・フリート街の理髪師スウィーニーが仕掛け椅子に客を座らせ、髭をあたっている最中に剃刀で喉を切り裂いて、椅子の下の穴に落としたというものである。穴は隣のパイ屋の調理場に通じており、女主人のラベットが死体を「人肉パイ」にして売っていた。このパイがあまりに美味なもので、連日長蛇の列ができた。

そういった理髪店が実在したことは近年まで確認されていなかったが、フリート街に住んでいた床屋についての記録がニューゲート監獄歴報に残っているという。しかも、1880年にフリート街186番地の家を取り壊した時、地下室から大量の骨が発見されたという話もある。ラベット夫人のパイ屋もベル・ヤード街に実在していた。また1949年にフリート街の工事が行われた際も、154番地で「スウィーニー・トッド理髪店」と書かれた看板が発見されている。

全世界でロングラン上演!! 戯曲「スウィーニー・トッド」

1975年度トニー賞最優秀ミュージカル賞をはじめ世界中で数々の賞を受けた「スウィーニー・トッド」は、イギリスの俳優で劇作家でもあるクリストファー・ボンドの同題の戯曲に基づき、ステイブン・ソンドハイムがミュージカル化した。ボンド以前にも、ブライアン・J・パートンの「理髪師スウィーニー・トッド」(1962)を始め、多くの作家たちが手掛けている。特に19世紀後半には大変な人気で、次々に趣向を変えた作品が発表された。産業革命下の物質的繁栄の裏に潜む暗い現実から逃れようと娯楽を求めたイギリスの大衆に、残忍な連続殺人と人肉パイの物語は、センセーショナルな大衆

小説として絶大なる支持を得た。このきっかけを作ったのは当時の週刊誌「ピープルズ・ペリオディカル・アンド・ファミリー・ライブラリー」で、トーマス・プレストが1846年11月から翌年にかけて身の毛もよだつスウィーニー物語を連載し、これが大評判となった。近年でも「レ・ミゼラブル」「オペラ座の怪人」と並び、世界中で上演され続けている古典サスペンス・ホラーである。日本では1981年に帝国劇場70周年記念の特別公演として「スウィーニー・トッド／フリート街の奇妙な床屋」というタイトルでロングラン上演(主演:松本幸四郎、市原悦子)された。

あのティム・バートンが監督を熱望した狂気の“スウィーニー伝説”!!

1795年ロンドン、フリート街。失踪した宝石商マンヘイムを追ってアメリカからやってきたベンは、マンヘイムがスウィーニー・トッドの理髪店で消息を絶った事実をつきとめる。次々に関係者が失踪し、事件は猟奇的な色合いを濃くしていく…。今回の映画化にあたっては、当初ティム・バートン監督で進行していたがスケジュールの都合で断念、変わって『真夜中のカーボーイ』でアカデミー監督賞を受賞し、『マラソンマン』『パシフィックハイウェイ』などのスリラーでもその手腕を知られる巨匠ジョン・シュレシンジャーが、徹底したリアリズムで完全映画化することとなった。かつてなくおぞましくグロテスクな題材が鉄人監督のバワフルかつ華麗なる演出で、究極の恐怖と同時に格調高さを感じさせる最高級のショッキング・スリラーに仕上がった。主演は、殺人鬼スウィーニー・トッドに『ガンジー』でアカデミー主演男優賞を受賞後、『シンドラーのリスト』から『スピーシーズ／種の起源』まで幅広い役柄を演じている名優ベン・キングスレー。彼はこの作品で1999年SGA(映画俳優組合)賞にノミネートされた。共演に『レストランの夜』で監督業にも進出したキャンベル・スコット、『旅する女』、『チャーリー・バレンタイン』の演技派ジョアンナ・ラムリーなど映画、演劇界のベテランたちが脇を固めている。脚本は「死海殺人事件」のピーター・バックマン。音楽は「フォー・ウェディング」のリチャード・ロドニー・ベネット。超一流のプロフェッショナル達の堅実な仕事ぶりも見逃せない。

スタッフ＝監督:ジョン・シュレシンジャー/製作:テッド・スワンソン/脚本:ピーター・バックマン

撮影:マーティン・ファラー/音楽:リチャード・ロドニー・ベネット

キャスト＝ベン・キングスレー/ジョアンナ・ラムリー/キャンベル・スコット

1997年度作品/カラー/アメリカ映画/1時間32分/配給:アルパトロス・フィルム 提供:アート・キャップ



8・7(土)より世紀末ロードショー!

特別鑑賞券 ¥1,600(税込) 絶賛発売中

●当劇場及び、チケットぴあ、チケットセゾン、都内各主要プレイガイドにてお求めください

●劇場窓口で買い求めの方にオリジナル・ポストカードをプレゼント ●GOODモニング割引(日・祝9:45の回は¥1,000均一)

シネマスクエア
とうきょう

日・祝 9:45 連日 11:40 1:35 3:30 5:25 7:20

新宿コマ劇場向いミラノ座3F 03-3202-1189



お座席での飲食はおとりわしております。ロビーにてお願いします。